



更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



「釧路国南弟子屈の更科源蔵君。牛舎の前で」中西悟堂撮影
〔定本・野鳥記 第七巻 平野と鳥と鳥〕同著口絵から



添えられていた中西悟堂筆の謹呈紙片



〔定本・野鳥記 第七巻 平野と鳥と鳥〕中西悟堂 著 春秋社刊

愛鳥家・詩人 中西悟堂

中西悟堂は日本野鳥の会を創設した人物として知られ、「野鳥」や「探鳥」という単語は、中西が野鳥の会を創設したときにつくったものです。中西は1895(明治28)年、石川県に生まれ、10歳のとき、お寺で108日間の座行や滝行、断食の修業を行いました。座禅を組んでいたとき、小鳥が肩や膝で戯れたことから終生、野鳥との付き合いが始まります。中西は15歳で僧籍に入り、法名悟堂として修業を続け、青年になって詩や短歌の文学を志します。

悟堂は、更科が住む原野をいつか一度、実見したいと思っていました。1939(昭和14)年、悟堂の妻の兄が北海道庁の役人になったことから、鳥の観察も兼ねて北海道旅行をします。更科は、この年の4月に妻・はなを亡くし、妻と過ごした家から母と兄たちが住む家に娘たちと移り住んでいました。悟堂はその熊牛原野を訪ねて来てくれたのです。その日は、はなを亡くしてから百カ日の日でした。

熊牛原野を訪れた夕方、悟堂は

熊牛原野の鳥や草花を観察しながら「燕麦の畠のなかの道を、源蔵さんが牛を追ってくるのに合おう。…のっしのっしと牛どもがあるいてくる。オーパーオールを着た源蔵さんが、長靴に草を噛ませながら牛の尻から声をかけては、平手でピシヤリと牛の胴を叩く。…源蔵さんは今度は馬のポンコをサンナシの木につなぎにゆくと、…」(上の口絵写真と、更科が仕事を終えるのを待ちます。

そして悟堂は、はなを亡くした百カ日に来合わせるといふことも何かの因縁かも知れない「三里離れた弟子屈にしか坊さんがいない」という北海道の原野のなかへ、はるばる東京から百カ日にめぐり合わせて来たのである。たとえ野鳥姿のままの、法衣も数珠もないとしても、逝った人の写真と、蠟燭のあかりと、備えた花菖蒲の前で、友だちのために坊さんの代わりをつとめられるのなら、お経だって住職時代よりはよっぽど本気に腹から出る」と、読経をしてくれませう。

翌日、悟堂は妻子らと美幌の駅で落ち合う約束があり「三、四日中にはもう一度、家族づれで御焼香にくる」と、南弟子屈の駅に長女と一緒に見送りに来た更科に約束して列車に乗り、別れます。



図書館だより

中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆図書館バスが川湯温泉駅前 に巡回します

毎週木曜日に運行している図書館バスのAコース巡回場所に、川湯温泉駅前が新たに加わります。詳しくは、図書館バス運行表をご覧ください。

「平成26年度図書館バス運行表」は、広報てしかが3月号に折り込みました。図書館と図書館バスで掲示・配布しているほか、ホームページでもご案内しています。たくさんのご利用をお待ちしています。

☆定期購読雑誌を一部変更しました

図書館で定期購読している雑誌のうち、2誌を入れ替えました。

▼購読をやめる雑誌→新しく購読する雑誌

「すてきな奥さん」→「サンキュー」
「read(エデュ)」→「クローン」

▼今月の休館日/7日(月)14日(月)21日(月)28日(月)29日(火)昭和の日

新刊案内

- 「怒り(上・下)」 吉田 修一/著
- 「オオカミの声が聞こえる」 加藤 多市/著
- 「暮らしを旅する」 中村 好文/著
- 「一生つかえる整理力が3週間で身につく本」 佐藤 亮介/著
- 「ふたりではじめる結婚生活」 阿部 絢子/監修
- 「毎日、こまめに、少しずつ。」 ワタナベ マキ/著
- 「サムライ・評伝三船敏郎」 松田美智子/著
- 「走るのが速くなる俊足教室」 朝原 宣治/監修
- 「ビックとドラゴン」 ヒック・ホレンドラス・ハドス三世/作
- 「どーしたどーした」 荒井 良二/絵

たくさんのお待ちしています！

てらさふ

朝倉 かすみ/著

「わたしたちのすごさを世界中に見せつけてやる」北海道小樽在住の中学生・弥子と笑顔瑠(ニコル)。中学1年の3学期、運命的に出会った2人は「ここではないどこか」に行くため、手を組んで「仕事」をすることに。

おすすめの新聞



EMC通信

～川湯の森から～



飲み物や本、クラフト材料、量スペースなども用意。思い思いにおくつろぎください

今年12月、阿寒国立公園は指定80周年という節目を迎えます。でもその前に、実は川湯EMCが4月に15周年という記念日を迎えるのです。今回は、地域の自然活動拠点としての役割を担ってきた当センターの歴史を、ちよつとひとりで思い出したいと思います。

町民の皆さんとともに15年

「？」という来館者の声を聞きます。EMCの前身でもあるピシターセンターが、川湯に開設されたのは1969(昭和44)年。以来、川湯地域を中心に摩周・屈斜路エリアの特別な自然環境を、皆さんに伝え続けてきたのです。そんなピシターセンターが名称も新たに、エコミュージアムセンターとして生まれ変わったのが1999(平成11)年。平成7年度から環境庁(当時)が進めていたエコミュージアム整備事業に基づいて新設された、先駆的存在です。活動の中心となる大きな柱は「地域住民とともに」という考えです。だからといって、堅苦しい理想はありません。サークル活動や研修会の場として、待ち合わせ、子どもの遊ば場、暇つぶしも大歓迎!どうぞ、お気軽にご利用ください。

2階ギャラリー企画展 「野生動物写真コンテスト」 開催中!

一般財団法人自然公園財団が主催している「野生動物写真コンテスト」(環境省など後援)の、第5回入賞作品を展示しています。

日本の豊かな自然の中で暮らす生き物たちの命と営みを、写真によって記録してこうというもので、1,503点の応募の中から選ばれた37点を展示。鳥や哺乳類、昆虫など被写体は多岐にわたり、北海道では見られない生物のワンショットもあります。ぜひ、この機会をお見逃しなく! 4月29日(火)まで。



力作が皆さんをお待ちしています

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100

URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 4月は8:00~17:00開館 毎週水曜日休館